

令和5年度 上田市立南小学校 学校自己評価シート(総合報告)

学校目標	めざす子ども像 ～笑顔輝く南っ子～			総合評価				
あたたかく ただしく	1 すずんで勉強する子ども	【ただしく】	「全職員で全校の児童を見守る」という意識の中で、チーム支援を大切に、指導したりよさを認めたりする職員集団を構築しようと努めている。児童間では、異学年交流を通して、お互いの良さを認め合う児童の姿が増えてきている。積極的なあいさつや基礎基本の充実など、課題としてあがってきているものについて、全職員で共通理解を図り、足並みをそろえた指導を引き続き行っていきたい。	A	B	C	D	改善策・向上策
	2 体をきたえる子ども	【つよく】						
	3 がんばりぬく子ども	【つよく】						
	4 自分で決めて行う子ども	【ただしく】						
5 思いやりのある子ども	【あたたかく】							
今年度の重点目標(重点活動)				成果と課題				改善策・向上策
知:正しく	わくわく学び合い	自分の考えを持ち表現する	グランドデザインの重点目標や各プランを意識して、同じ方向をめざしながら取り組みが進められた。一人ひとりがめあてを意識して活動する姿が多く見られている。		○			児童会活動との連携や、各種月間での取り組みを通して、主体的な活動となるようにしていく。また、よさを認め、広めていくことで、児童の自己肯定感を更に高めていけるようにする。
徳:温かく	にこにご響き合い	自分から進んであいさつする	細かい部分では、自分から進んであいさつをする姿や、自分から気づいて清掃に取り組む姿についてまだ課題がある。			○		
体:強く	とんとん磨き合い	根気よく清掃に取り組む			○			

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
学年・学級経営	教育活動	気づき清掃の推進・奉仕精神の醸成	ひざつき清掃など、具体的な清掃の方法を指導し、自分から気づいて前よりきれいにすることで、協働することのよさや奉仕の大切さを意識させることができたか。	「だまって」清掃に取り組むことに重点を置き、児童会と連携し、企画を通して清掃指導を行ってきた。特に縦割り清掃では、高学年が良い見本となり、低学年は、高学年の姿を見て、気づき清掃を学ぶことができた。清掃に対する態度や方法などが低学年にも浸透してきたと感じる。更に、汚れているところに気づいてきれいにしようとする気持ちを育てていきたい。			○		児童の良い姿を褒める声かけをしていく。高学年が見本を示したり、教師も一緒に清掃に取り組んだりすることで、ともにきれいにすることができたという達成感をもたせていきたい。	
		規範意識の高揚と危機管理意識の向上のための指導	校内生活で「右側廊下歩行」の徹底をさせて規範意識の高揚を図れたか。通学時に「道路横断前後の立ち止まり(確認・挨拶)」を意識付け、実践させることはできたか。	「右側廊下歩行」については、なかなか徹底できていないところがある。引き続き根気強く指導を続けていきたい。交通安全教室を行い、街頭指導も丁寧に行ったりしているが、登下校の様子では「自分で自分の命を守る」意識が高いとは言えず、ルールを守れていない姿があった。			○		安全に行動することについて、共通認識をもてるようしっかり指導していく。引き続き交通ルールやマナーの指導を丁寧に行っていく。	
		気持ちのよいあいさつの充実と返事の徹底	積極的な声かけや児童会活動との連携で、気持ちのよいあいさつや返事のよさを自覚させ、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。	児童会の取り組みにより、あいさつをする習慣がついてきている姿もあるが、「声をかけられたから」あいさつをするという受け身的な姿勢の児童や、小さな声であいさつを返す児童が多い。自分から気持ちの良いあいさつができるようにしていきたい。				○		児童会の取り組みを後押ししていくとともに、引き続き、職員も自分からあいさつをすることを心がけていく。子どもたちが気持ちの良いあいさつができていく姿を認め、広げていく。
		響き合う歌声や交流活動による認め合える仲間づくり	仲間と歌声を響き合わせたり、異学年や地域の方々とのふれあい交流を行ったりすることで、互いに認め合える集団づくりを進めているか。	縦割り班での活動や児童会祭りで、異学年との交流が進み、新たな自分を発見して自信につなげた児童もいる。朝の学活で思う存分歌が歌えるようになったり、音楽集會が行えるようになったりと、学校生活に歌声が戻ってきた。音楽集會では異学年の歌声を聞き合い、ともに歌声をお互いの良さに気づくことができた。				○		音楽集會や児童集會を計画的に行い、異学年交流の場を設けていく。総合的な学習の時間や行事などを通して、更に異学年交流を図っていく。音楽集會のやり方の工夫をし、歌うことへの意識をさらに高めていく。
学習指導	教育活動	授業のユニバーサルデザイン化・南小スタイルの推進	校内及び教室環境や教材の整備ができたか。「学習問題」「まとも」を板書計画に位置づけ、授業の流れがわかる板書の工夫ができたか。	「学習問題」「まとも」を位置づけることを意識してきた。どの子にも見やすい板書を心がけたり、子どもたちが理解しやすい掲示物を選定して掲示したりした。また、クロームブックを活用し、わかりやすい授業に向けて取り組むことができた。			○		教師がお互いの授業から学んだり情報交換したりする機会を作っていく。今後も一時間の流れがわかる板書を心がけたり、一人ひとりの様子に気を配りながら教材を作っていく。	
		じっくり考え、しっかり書く振り返りの時間の確保	1時間で学んだ内容を書いたり、学び方を振り返ったりする時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認しているか。	まともと振り返りの時間を確保できるようにしてきた。自分の考えを書く時間を位置づけるように意識したが、十分にはまよりの時間を確保できていないところもあった。お互いの学びを評価しあったり、自分の学びをまとめる時間を確保できるようにしたい。			○		書くことに苦手意識がある子もいるため、書く力を育てていくとともに、書き方や内容を明確にしたり、発言等でも子どもたちの意見を授業に位置づけていく。	
		基礎基本の定着・家庭学習の充実	ドリルや学びの時間で、つまづきを把握して、丁寧な指導を行い、基礎基本の定着を図れたか。「家庭学習の進め方」をもとに家庭と連携した家庭学習の充実に努めているか。	ドリルの時間や家庭学習等で、繰り返し練習することを意識して取り組んだ。家庭学習については、内容や量などを工夫して取り組みやすいようにしてきたが、目的や取り組み方については、今後さらに保護者の方と共通理解を図っていかないとよい。				○		ドリルや学びは、目的をはっきりとさせていく。家庭学習の在り方について、学校として共有し、家庭にお伝えして協力を仰いでいく。
		わからないことを聴き合い、考えを伝え合い、学び合う授業づくり	ペアやグループでわからないことや互いの考えを聴き合い、自分たちの考えを深め合い、それを伝え合いたくなる学習場面を設定しているか。	子どもたちが話し合ったり、関わったりする機会を意識して設定した。目的や時間など、子どもたちと共通理解を図るとともに、必要感をいだいて活動に取り組むことができるようにしていきたい。				○		今後もペア・グループ活動を取り入れていく。グループでの発表にとどまらず、自分の考えを伝え、それについて意見交換していく活動になるよう意識していく。
地域との連携	学校作り	信頼関係でつながる学校づくり	学校・学年・学級だよりや懇談等を通して、学校での子ども様子を伝えたり、うれしかったことや心配なことなど個別に連絡を取り合ったりすることができたか。	学年通信、学級通信を通して、保護者に様子をお伝えしてきた。必要に応じて懇談の時間を設けたり、電話でお話したりして、こまめに情報交換をすることができた。				○	今後も良い姿や学級全体としての姿、子どもたちのやり取りの様子などを学年通信や学級通信で伝えていく。心配なことがあるときには、保護者と連絡をとり、共有することを大切にしていく。	
		南っ子応援隊の活用・三点固定の生活習慣の確立	地域の方と連携した教育活動を昨年以上に広めることができたか。家庭と連携してメディアと向き合う時間・家庭学習時間・就寝時刻等の固定による望ましい生活習慣の育成を図ることができたか。	グッドメディアデーを通して、メディアとの関わり方について定期的に保護者の方や子どもたちと考えることができた。今後も子どもたちと話をする機会を作り、よりよい生活ができるよう支援していきたい。				○	グッドメディアデーに取り組んでいるが、その場限りで終わることなく、毎日がグッドメディアデーになるよう、家庭と連携していく。	

※評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった